

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2382号 2017年11月06日（月曜日）

《 so far so good 》

いくつか気になるポイントが存在する週明けです。5日までに来日→ゴルフ、その前後における数回の良い会食と展開している日米首脳会談だが、本番の6日の正式会談でアメリカ側、もっと言えばトランプ大統領が日米間の貿易不均衡問題にどの程度突っ込んだ“容喙”をするのか？ サウジで始まった「習近平の中国」並みの汚職撲滅の動きが同国がらみの国際金融の秩序やマネーの流れに影響を及ぼさないのか？ 日米で進む株高のピッチの速さをどう考えるのか？ など。

トランプ氏の大統領としての初来日は、初日を見る限り「極めて順調」と言える。松山英樹選手を交えての霞ヶ関カンツリー倶楽部での安倍首相とのゴルフ、その前後の複数回の会食という展開は、両首脳の緊密さを際立たせた。同大統領に対する日本国内での目立った反対運動もなく、また娘であり大統領補佐官でもあるイバンカ・クシュナーさんの訪日の成功もあって、「日米関係は対北朝鮮問題を含めて盤石」なように見える。しかしアメリカ・サイド、もっと具体的にはトランプ大統領には選挙公約との絡みで日米貿易不均衡是正の問題を日本側に「いつ切り出そうか」と考えている節がある。

世界では、表立ったデモなどもなくトランプ大統領を迎え入れる国は少ない。国内でモラー特別捜査官のロシアゲート事件の捜査が進む中での来日で、「トランプは外交では良くやっている」との評価が欲しいだろうから、日本とのガチでの「不均衡是正交渉」には出てこないとも思える。麻生副総理とペンス副大統領間、さらにはもっと下の閣僚レベルで日米FTAを含めて「協議開始」といったところが良い落とし処だ。

しかし「次に何を言うか分からない大統領」であり続けるトランプ大統領の「次の関心・発言」を読むのは難しい。その意味で6日の正式な日米首脳会談の中味は注目だ。不均衡問題が持ち出されれば、潜在的には円高要因だと言える。

この週末に「おや」と思ったのはサウジアラビアで始まった汚職対策と銘打った権力闘争だ。これは4日から同国で始まったもので、同国当局は新たに設置された反汚職委員会の下で、王子11人を拘束したと発表した。サウジ系の衛星テレビ局「アルアラビーヤ」が伝え、これに関連して閣僚ら3人が解任されたという。

CNNによると、サウジの国営テレビ局の報道では経済・企画相、国家警備相と海軍司令官の3閣僚が交代する。同国の反汚職委員会は、「サウジの発展を妨げる問題への積極的対策」

の一環としてサルマン国王が設置を命じ、ムハンマド皇太子がトップの座に就いた。同委員会には汚職に関与したとされる人物の捜査や拘束に加え、海外渡航を禁止したり、資産を凍結したりする権限がある。

筆者がこの報道を見て直ぐに思ったのは、「自分の息子であるムハンマド皇太子への権力委譲を狙う国王が、“汚職撲滅”の旗を借りて王族の中での権力闘争を開始したのではないか」「それによって、世界にばらまかれているサウジのお金の流れが、今後どうなるのか」という点だ。まだサウジの汚職撲滅の動きは初期の段階だが、手法は習近平が中国で取った方法と似ている。

ロイターはサウジの高官筋の話として、拘束された具体的人物名として、投資会社キングダム・ホールディング・カンパニーを率いるアルワリード・ビン・タラール王子や、サウジアラビア国家警備隊大臣のムトイブ・ビン・アブドゥッラー王子、リヤド州元知事のトゥルキー・ビン・アブドゥッラー王子そして王室裁判所の元長官のハリド・アル・トゥヴァイリー氏、アーデル・ファキーフ経済企画相、アッサーフ元財務相、海軍司令官であるアブドゥッラー・ビン・スルタン・アル・スルタン海軍中将などの名前を挙げている。

その中で一番の注目はタラール王子だ。同氏は世界屈指の富豪として知られ、ニューヨーク・タイムズによると、ツイッターやシティグループ、21世紀フォックスなどの株主だ。さらに、ビル・ゲイツ氏やルパート・マードック氏、マイケル・ブルームバーグ氏といった「ビジネス界の巨人」との取引関係でも知られる。

こうしたサウジ系の投資が、今後この汚職撲滅運動でどうなるのかだ。かなり動くようなら、マーケットに対する影響も出てくる。今回のサウジ国内での権力闘争にはまだ第2幕、第3幕があるとも想像され、そのサウジの投資資金の動きが注目される。

《 so far so strong 》

株価は引き続き世界的に強い。いろいろなサイトでチャートを見ると、日本では今年9月からの株価の上げペースが、過去のどの期間にもあまり見られなかった急カーブを描いている。東京市場の先週最後の取引は木曜日だが、日経平均は119円04銭、0.53%上げて引けは22539円12銭となった。先週のレポートでも「日本株への海外の注目」を少し取り上げたが、それにしてもややペースは速い。

日本が連休に入っていた先週金曜4日のニューヨーク株式市場では、ダウ工業株30種、S&P500、NASDAQの3指数が揃って史上最高値での引けとなった。ニューヨーク株の方は少し長いレンジで株価を見るのが妥当で、リーマン・ショックからの立ち直りの2009年を株高のスタートとすると今年には既に9年目。その勢いは鈍るところか加速している印象がする。むしろ、このニュースで何回も取り上げているように、マーケットを取り巻く環境はずこぶる良い。

何よりもアメリカの場合が特にそうだが、企業を取り囲む環境が良い。先週金曜日の場合にはiPhoneの売れ行きに対する懸念などもあって最近冴えない動きだったアップルが、四半

期決算がマーケットの予想を大きく上回ったこと、iPhone X に対する強い需要と供給に対する懸念一巡もあって一日で 2% 以上大きく上昇した。それが NASDAQ を含めてマーケット全体のムードを明るくしている。アップル株の時価総額は一時 9000 億ドルに達し、「世界で最初に時価総額が 1 兆ドルの企業」になる可能性が囁かれている。

そのアップルと特許の関係でライバルにあるチップ・メーカーのクアルコムも大きく上昇した。通信大手であるブロードコムがクアルコムの買収に乗り出すかも知れないとの観測がクアルコムの株価を大きく押し上げた。

個々の企業に関する明るいニュースだけではなく、経済全体を示す指標も強い。4 日に発表された 10 月の米雇用統計では、非農業部門の就業者数は 26 万 1000 人と発表された。これは 30 万人を超える数字を予想していたマーケットにしてみればやや弱い、「まだハリケーンの影響が残っている数字」との見方も残る中で、「(9 月から) 数字が予想通り強く反発した」との安心感が生まれていた。また失業率が 4.1% と「3% 台が覗ける水準」に達したことも「アメリカ経済への信頼感」に繋がった。

トランプ大統領は予想されたとおりジェローム・パウエル FRB 理事を来年 2 月 3 日に一期目の任期を終えるイエレン議長の後任に指名した。しばしば指摘されるようにイエレン議長が更迭されたのは共和党内の意見もあるが、もっぱら「オバマが指名した」という点(トランプ大統領が嫌う)にあって、後任選びのポイントは「彼女の低金利政策を続けられる別の人物」というのがポイントだった。なので、マーケットはパウエル指名を「予想通り」と受け取った。しかし歴代 FRB 議長の中では「経済学博士」の称号を持たない珍しい FRB 議長となるなど、今後の舵取り、議長への同僚理事達の信頼感などの目でやや不安な材料が残った。

それに関連して今朝見たウォール・ストリート・ジャーナルにはダドリー・ニューヨーク連銀総裁(従って FOMC メンバーである)が、予定より半年ほど早くリタイアするとの報道がある。その発表は早ければ 6 日に行われる予定だそうだ。もっとも次期議長にパウエル氏が指名されたことと、今回発表されるダドリー NY 連銀総裁の早期引退との関係は「ない」とされる。

《 with gradual adjustments 》

パウエル次期議長が発表される直前の FOMC 声明は、12 月の「利上げ」を強く示唆するものとなった。これに加えての 4 日発表の好調な米雇用統計は、その可能性を一段と高めたと思われる。イエレン議長も「(自分が主導する)最後の利上げ」を任期の最後にしておきたいだろう。言ってみれば「出口戦略の入り口の完成」と言える。

FOMC は声明の中で今後の方針に関して「Consequently, the Committee continues to expect that, with gradual adjustments in the stance of monetary policy, economic activity will expand at a moderate pace, and labor market conditions will strengthen

somewhat further. Inflation on a 12-month basis is expected to remain somewhat below 2 percent in the near term but to stabilize around the Committee's 2 percent objective over the medium term.」と述べた。

引用が長くなったが、ポイントは「with gradual adjustments in the stance of monetary policy」の「gradual」。次の単語が「adjustments」なので上げも下げもあるが、でも今の景気状況では「上げ」でしょう。当然ながら「それは 12 月」とは言っていない。しかし今の「ハリケーンはアメリカ経済に大きな打撃なし」という景気認識なら、また今の雇用情勢では 12 月は利上げすると思われる。

今回の FOMC は議長の記事会見なし。その後イエレンさんの退任が決まったので、彼女の最後の FOMC 後の記者会見は 12 月となる。来年 1 月の FOMC は 1 月 30～31 日で、アスタリスクなし。今年最後の 12 月の FOMC は「12-13*」（FRB の HP から）となっていてアスタリスクが付いているので、それが最後の FOMC 後のイエレン会見となる。

それにしても先週発表の FOMC 声明を読みながら、「いったい何回“2”という数字が出てくるだろうと思いました。2017 の「2」、午後 2 時発表の「2:00」を含めると「2」が声明文の中にちょうど 10 個登場し、その内「2 percent」として使われている「2」が五回となっている。それだけ「2 percent」が FOMC にとっても「気になる数字」ということです。

今回の 10 月の雇用統計を見ても分かるが、FRB のダブル・マンドートのうち「完全雇用」はほぼ達成できている。しかしいかにせん「2 percent の物価上昇」が達成できない。声明文にも「inflation for items other than food and energy remained soft」と出てくる。多分とっても気になっている筈だ。むろんいつもの「Inflation on a 12-month basis is expected to remain somewhat below 2 percent in the near term but to stabilize around the Committee's 2 percent objective over the medium term.」という文章は忘れていない。しかし「2 percent の物価上昇の達成」は、パウエル新議長にとっても大きな課題になりそうだ。

- - - - -

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|---|
| 11月06日（月曜日） | 9月20・21日開催の日銀政策決定会合議事要旨
日米首脳会談 |
| 11月07日（火曜日） | 9月毎月勤労統計調査
豪州準備銀行理事会
米韓首脳会談 |
| 11月08日（水曜日） | 米9月消費者信用残高
中国10月貿易収支
9月景気動向指数
米中首脳会談 |

11月09日（木曜日）

9月機械受注
9月国際収支
中国10月消費者物価
10月都心オフィス空室率
10月景気ウォッチャー調査

11月10日（金曜日）

10月マネーストック
9月第三次産業活動指数
米11月ミシガン大学消費者マインド指数
米10月財政収支
ASEAN 首脳会議(フィリピン ~14)
APEC 首脳会議(ベトナム ~11)

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。金曜日からみの3連休とあって、大勢の方が出掛けられたのではないのでしょうか。雨が降ったり晴れたりと天候はまちまちでしたが、それぞれ秋を楽しまれたと思います。秋の深まりは今朝の温度にも示されている。起きた時にはデバイスが示す外気温は10度でした。多分これまでで一番寒い。秋花粉もありますし、皆様には体調管理に万全を。

私は3連休を利用して黒部・立山・上高地などを回りましたが、言ってみれば山ばかりの地域を移動。急峻な山、また山の連続。改めて思ったのは、「日本に関東平野など一部の平原が残ったこと自体がラッキーなんだな、ということでした。日本は本当に「山の国」です。しかしその山が日本に雨をもたらし、国土を豊かにしてくれている。感謝しなければと思いました。

それにしても黒部ダムそのものと、それが存在する場所には驚きました。よくあんな場所を見付け、よくあれだけの建造物を作ったものだ、と。雪も降っていて寒かったのですが、「記念に」と思って長さ182メートルのダムの上をジョギングして来ました。

ところで先週は「BEYOND THE MOTOR」をテーマにした東京自動車ショーを見にお台場まで行きました。面白かった。しかし思ったのは、「自動車を超える部分」というのは実は「見えない部分」なので、静的に会場に置いた車で表現するのはそもそも難しい、という点。

その概念を現実的に担保するのは「CONNECTED CARS」という既にかなり前から使われている単語で、「繋がる車」と訳される。しかし自分が使っている、そして乗っている車が「connected」であることを実感するのは、利用者がアクションを起こしたときです。

乗る前にスマホなどを使ってナビを入れる、車内を暖房（冷房）しておく、乗ってからはボイス入力で近くのレストランを検索し、その結果を表示する、そしてそのレストランを予約するなどなど。事故ったらセンターが呼びかけてくれる..... など。そのいくつかは既

に実現しているのですが、総合的にそれを止めている車で表現するのは非常に難しい。なので「BEYOND THE MOTOR」「CONNECTED CARS」を思い描きながらも、実は単体としての車に目が行ってしまふ。

そこで思ったのは、本当にモーターショーをその概念でやろうとしたら、「車を実際に走らせるスペースがある場所」でのショーが良いのではないかと。街全体をショーの会場にするといった。でもまあ、今回は77万を超える人が来たTMS。なかなかそうは出来ないでしょう。

「connected」であること、「BEYOND THE MOTOR」であることを展示各車で確認しながら歩く事など無理なので、結局は会場を回って「これ...カッコいいな」などと思いながら、2～3の関心のある車で立ち止まって係の人と話を... という形でした。

「MIRAIの新型車はいつ出るのか」というポイント（自分の車がモデル落ちになるので）はあったのですが、それは出ていなかった。会場を回っていて一番目が止まったのは、「ポルシェ・356」の最新バージョンでした。気品のある白、丸みのある車体、それにも関わらず「どれだけ出せるんだ...」という可能性を感じさせる。全く実用的ではないが、「買えるんなら買いたい」と思わせる車でした。

次に「面白い」と思ったのは、完全自動運転が出来るようになったときに、車の内部がどう変わるのかをイメージしたと思われる車。確かトヨタさんのコーナーにあったと思う。道路交通法がどう変わるかにもよるのですが、完全自動運転では理論的には運転手も後ろを向いて同乗者と話をしたり、コーヒーを飲んだり... といういろいろ出来るようになる。今では想像も出来ないものを持ち込むことも可能です。面白かった。

東1ホールはトラック・バスでしたが、結構面白かった。普段触れない車なので。目を引いたのは、まるでトラック離れしたトラック。「まるやか」「トラックの印象ゼロ」という印象の展示で、未来のマイクロバスのような形をしていた。「こんなトラックで配達に来てくれたら、中を見せてもらいたくなる」と思いました。

今年もアメリカの自動車メーカーの影も形もなかったのですが、フランスから新しい自動車メーカーが出品していました。DS Automobiles。そう言えば一回だけこのロゴを街で見たことがある。シトロエンから分離したメーカーらしい。「どこで試乗できるだろう」と思いましたが、街でディーラーさんでも見掛けたら乗ってみようと思う。その他バイクなども面白かった。

私は家にAIスピーカーが来たときから、「これは車に入るべきだ」と思っていました。「最新ニュースをやって」「誰々の音楽をかけて」と実に使えると思う。今のAIスピーカーはwifi接続なのでちょい難しい。今度スマホのテザリングで動かしてみようと思うが、5Gになったら十分に稼働するのかな。あのスピーカーは身の周りの彼方此方に置くことで利便性が高まると思う。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》